



外国人からは「リッキーさん」と呼ばれている。勘定の際などにかぶるといふ手作りの帽子「フラワーハット」は、いまやトレードマークだ。大徳寺が近くにある京都市北区紫野で中国レストラン「知蔵人」を営む。「しるくろ一ど」と読む。



人生楽しみ 前向きに明るく

京都府中華料理生活衛生同業組合理事

りきまる しょういち
力丸 彰一さん(69)

お客の6割は外国人観光客だ。「これまでに68カ国からお越しいただきましたが、中でもフランス人が圧倒的に多いです」。創作したラーメンがフランス人に人気を呼び、それが伝わり、フランスで一番の観光ガイドブックで紹介されて外国人観光客が一気に増えたという。「インターナショナルな店でございますので(笑い)、言葉は日本語と京都弁です。メニューは写真を見ての指さしメニューでございます」とユーモアたっぷりに説明してくれた。

奥さんを9年前に胃がんで亡くし、今は一人で店を切り盛りする。「お客さんが食事を終えたら、自己紹介をかね、17歳から習い始めた趣味の龍笛(横笛)で雅楽の越天楽を

披露します。祇園祭のコンチキチンなども身振り手振りで実演してみせます。最後はこのフラワーハットをかぶってVサイン。記念写真を撮ります。楽しい旅でいい思い出をつくっていただきたいから」。旺盛なサービス精神とこまやかな気配りでもてなしをする。

26年前に胃がんが見つかった。幸い初期だったが、1日50本吸っていたたばこはやめた。休業日は1万歩を目標に歩く。「仕事柄、大きな鍋などを使うため腰痛や肩こりに悩まされます」。そこで、ソフトボール2個、さらには竹を腰などに入れて体をそらし、血行をよくする運動を欠かさない。11年間続けている日記も欠かさない。「毎日、その日にあったいいことを必ず三つ見つけ書いています。前向きに明るく楽しく生きる。日記も私の大事な健康法です」

箸袋の裏に好きな言葉を書いているが、1万枚ごとにその内容を変えている。次回の言葉は一。「死にはせぬ どこへも行かぬ ここにいる 尋ねはするな ものはいわぬぞ」。大徳寺の一休さんの言葉だとされる。そういえばリッキーさん、一休さんに似てきたのかな？

